

館所蔵民具目録 一農具 I -

佐川和裕

昭和63年10月、「湘南の丘陵と海」をテーマとして掲げて開館した当館にとって、生活様式が急激に変容しつつある地域の生活資料や情報の収集は大きな使命であった。幸い、多くの方々のご理解とご協力をいただき、いつしか充実した資料数を誇るまでに至っている。しかし、これらの中には昭和30年代以降に先賢の方々が地道に収集されてきた資料が含まれていることを忘れる事はできない。数こそ多くはないが、今では手に入れる事のできない貴重な民具も目にすることができる。当時、収集された民具は教育委員会の倉庫や図書館、学校の校舎などに保管されていた。しかし、その後の改築や新築などで移動を余儀なくされ、散逸してしまったものも少なくない。

このような中で、民具の収集を本格的に開始したのは、昭和58年にリニューアルされた図書館の2階に郷土資料研究室が併設されて以降のことである。何よりも専用の収蔵庫が設けられたことが心強く、安心して収集活動にも力を注ぐことができるようになった。町広報で協力を呼び掛けたり、旧家を直接訪問してお願いするなどしているうちに次第に周知され、初年度だけで28件500点を越える民具の寄贈を受けることができた。その後、図書館の収蔵スペースだけでは対応しきれなくなると、新たにプレハブの収蔵庫の建設が叶うなど、その活動は徐々に認知されていったといえる。

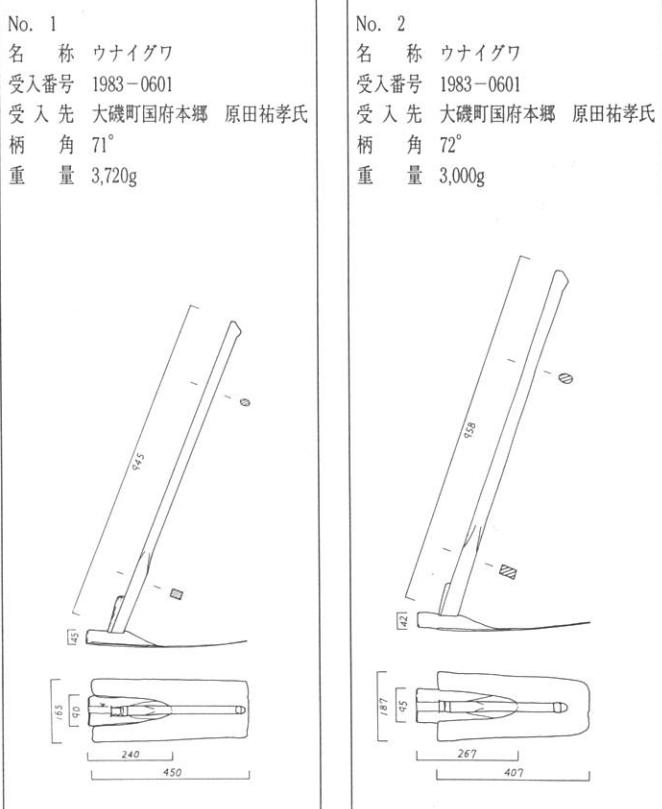
昭和63年に郷土資料館が開館すると、家屋の取り壊しや不用品の処分に際しては、必ずと言っていいほど資料館に声がかかるようになった。失われつつある民具を残すことが第一義と考えて活動していた担当者としてはうれしい限りであるが、その分、整理に費やす時間も激増してしまった。恥ずかしながら、民具が整理の順番を待って山積みされている状況もめずらしくなく、企画展のテーマが、そのまま民具整理につながるという、本来ならば逆であるべき作業行程に甘んじている事態も起きている。このような状況の中で、今、いちばんに求められているのは民具目録を作ることである。本来、目録としては有形民俗文化財の分類に準拠しながらまとめるべきであろうが、整理が追い付いていない現状や、一刻も早くご協力者

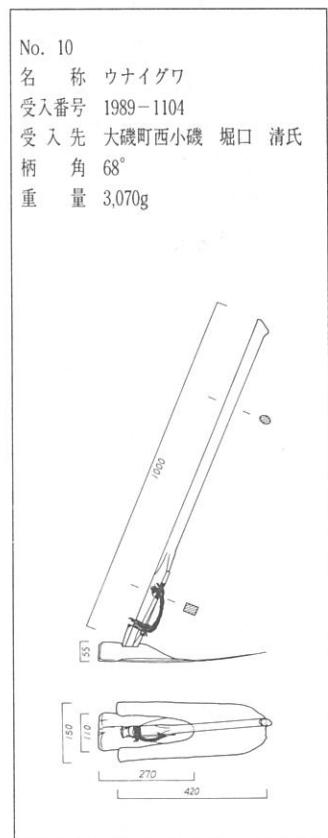
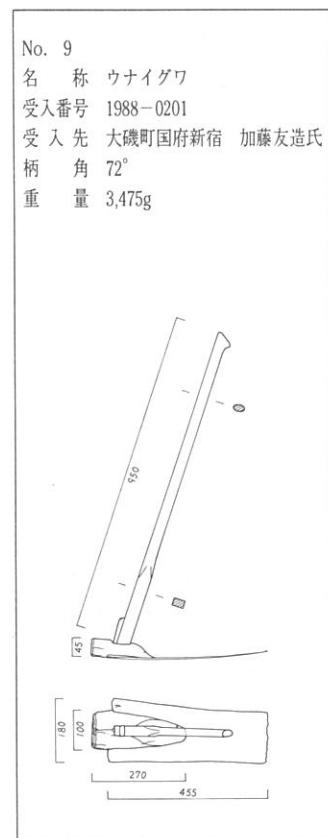
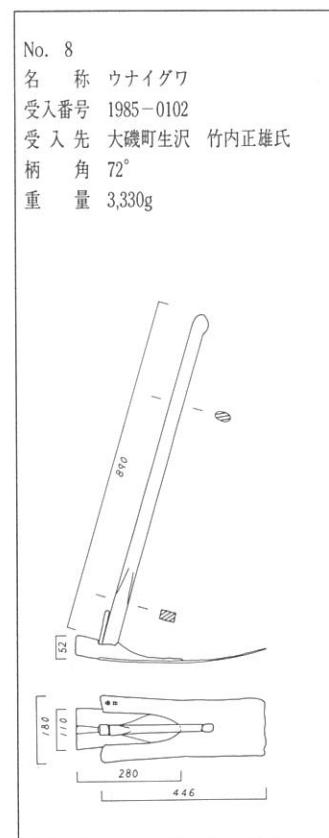
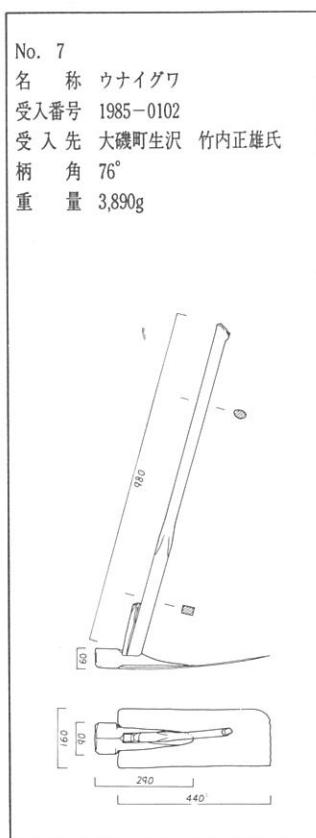
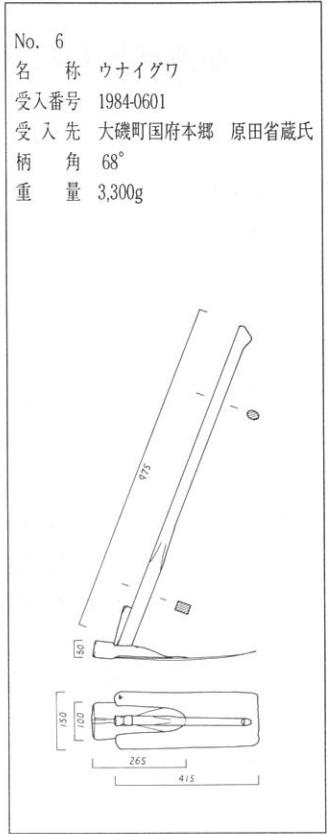
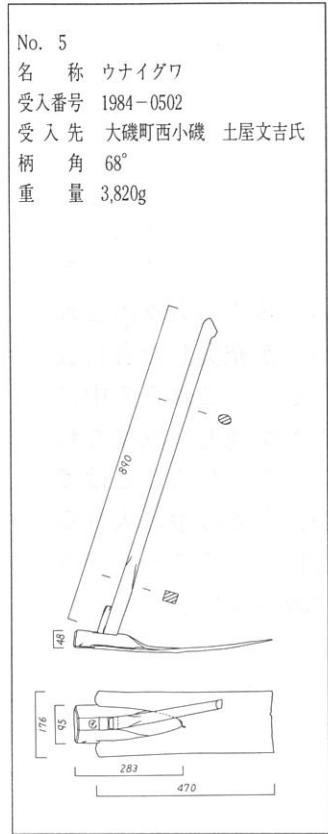
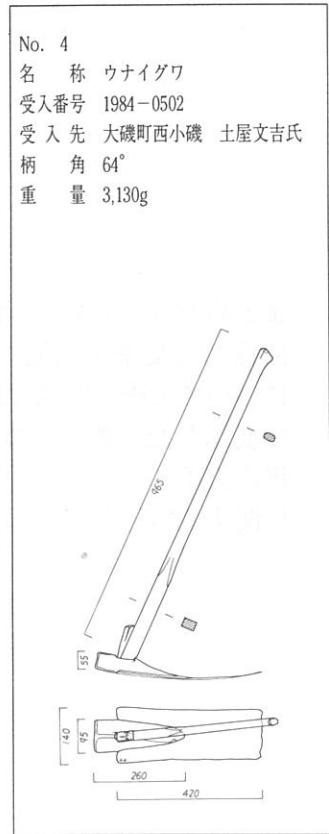
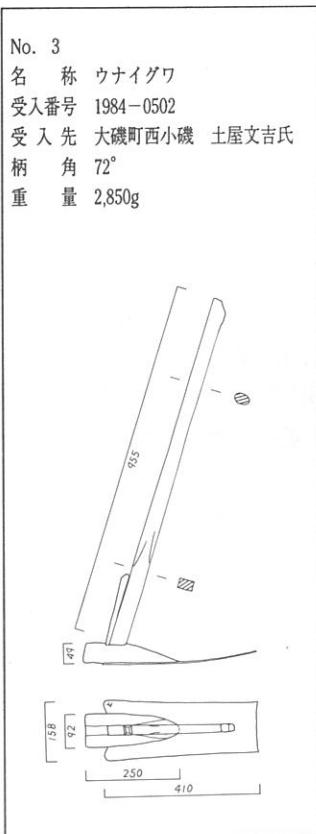
のご好意に報い、利用者の方々に還元することを考えると、とにかく可能なものから『目録』の形にすることが賢明であると考えている。もっとも将来的には目録を1冊に整理編集するという展望は持っている。

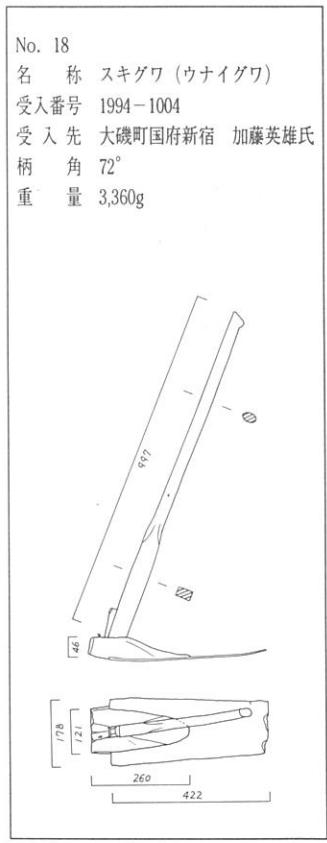
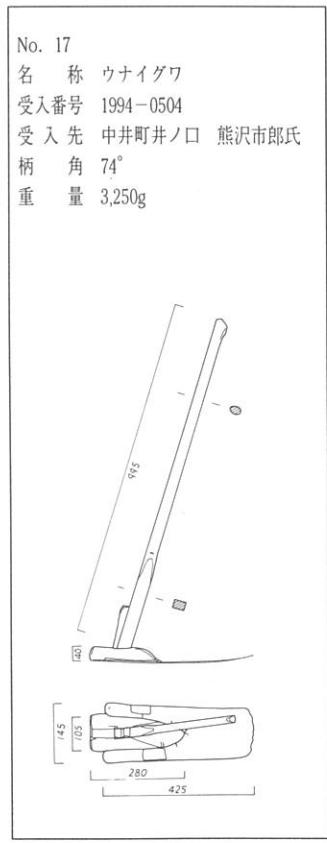
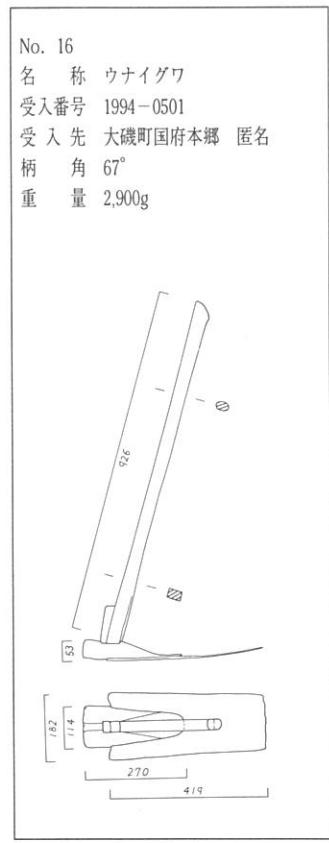
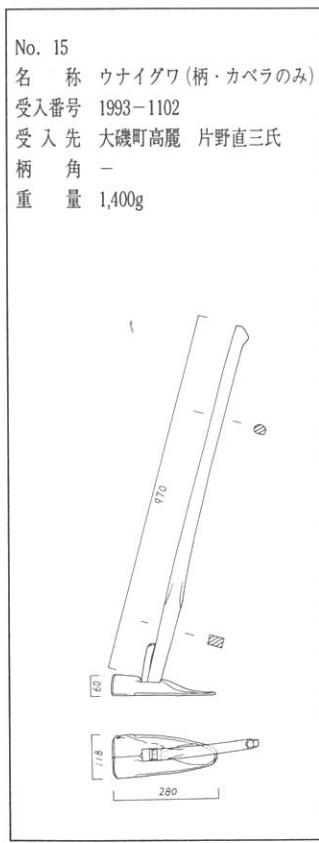
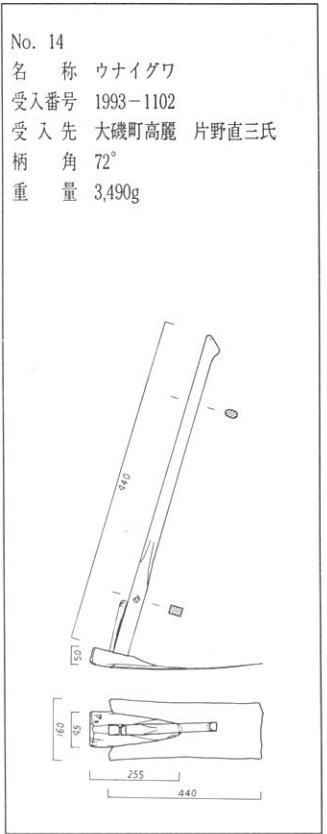
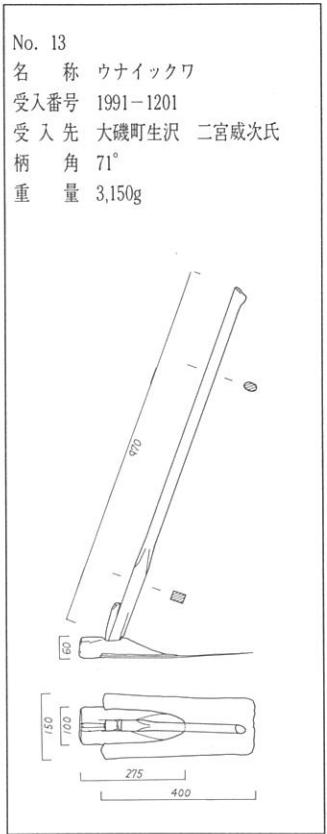
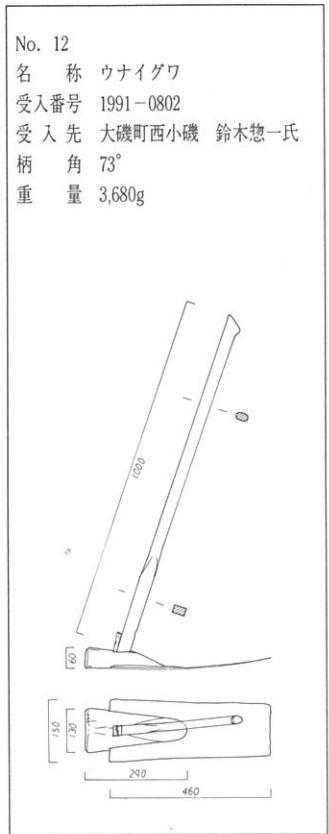
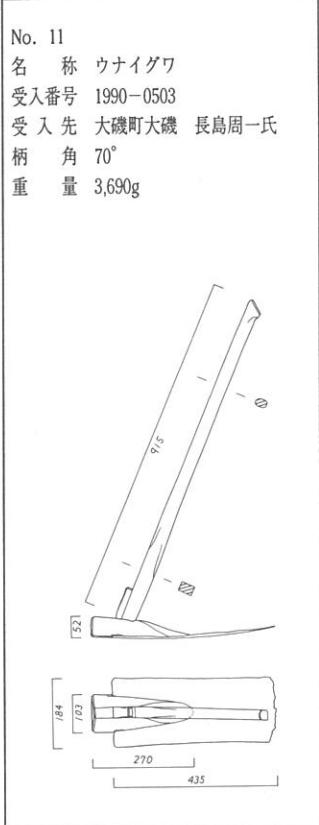
さて、本稿では、農耕に関わる民具のうち、鍬（ウナイグワ、サクリグワ、トグワ、マンガ）をまとめたものである。鍬については平成9年度に開催した夏季企画展『鍬 KUWA - 土の記憶 -』において大磯丘陵域で使用されていた鍬を集めて展示した。農耕環境の変遷、鍬の形態と成因、鍬の入手方法や管理、鍛冶屋との関わり、農作業に関する儀礼など、さまざまな視座をもって捉えようとしたものである。そして、繰り返しになるが寄贈された方々に謝意を表しつつ民具を積極的に活用することを大きな目的としたものであった。

同展では当館所蔵民具を中心に、大磯丘陵域の平塚市、二宮町、中井町、小田原市などの博物館施設や個人から借用しながら展開した。一部は重複するものの、本稿ではあくまでも当館所蔵民具の図版目録の性格と役割を持つものとして位置付けている。

(当館学芸員)

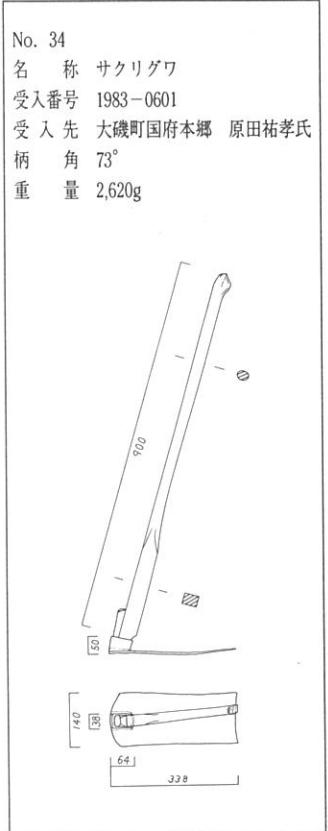
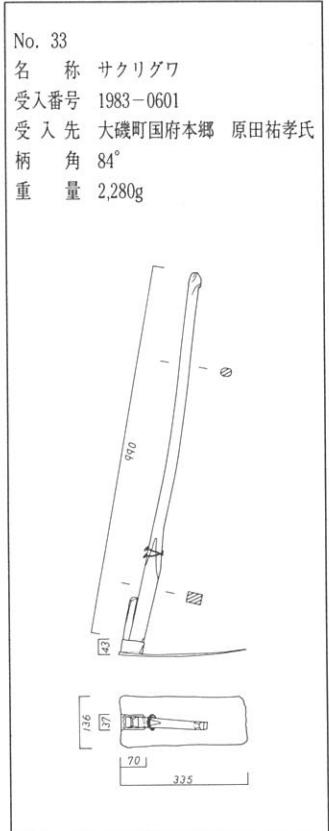
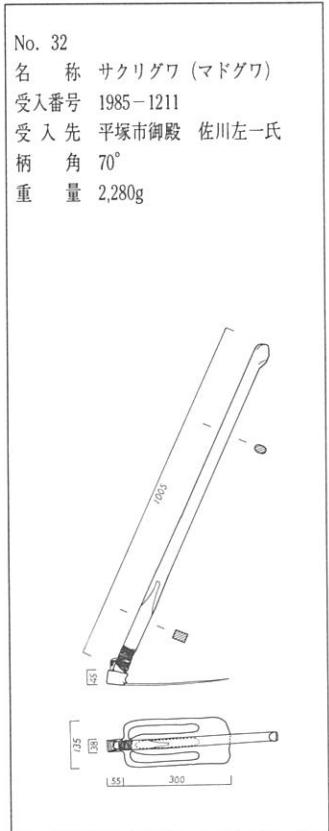
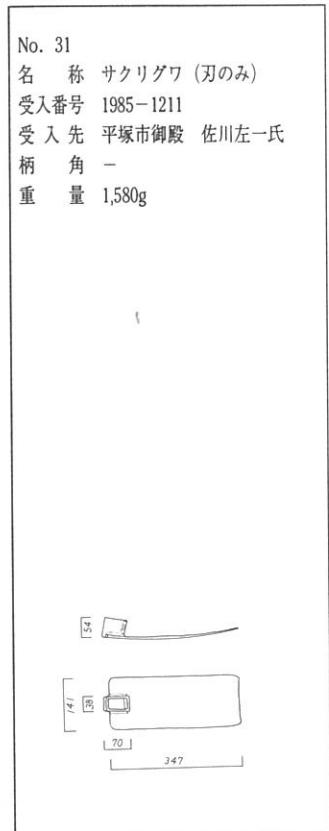
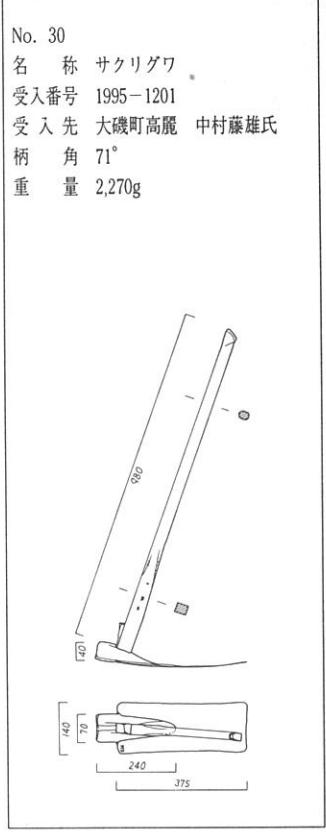
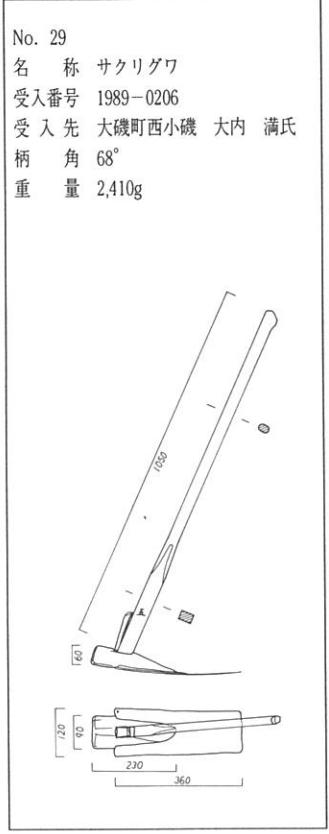
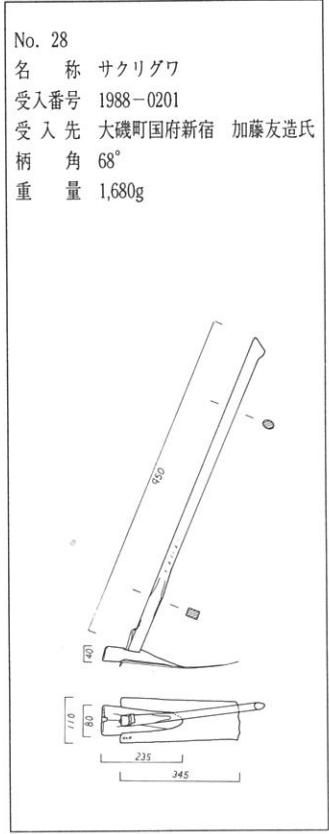
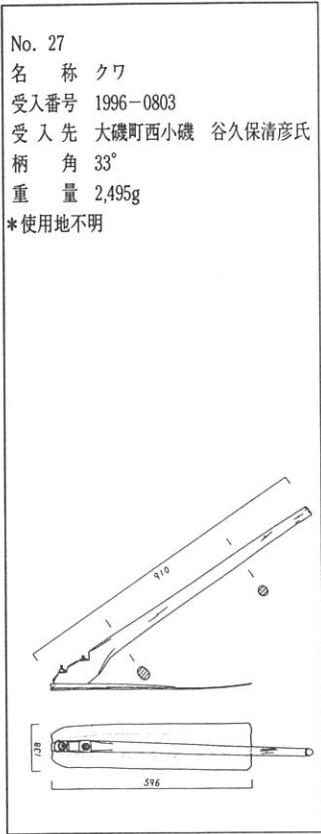


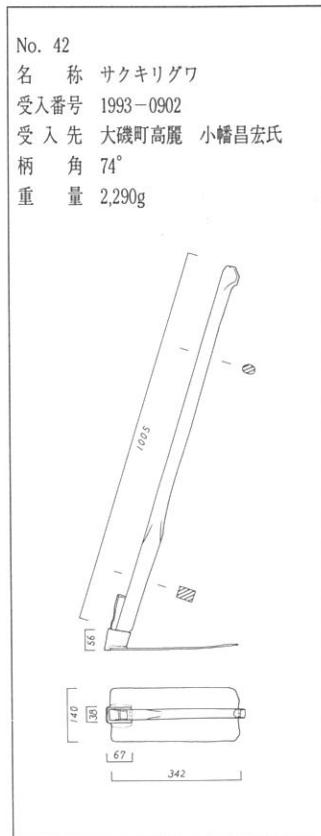
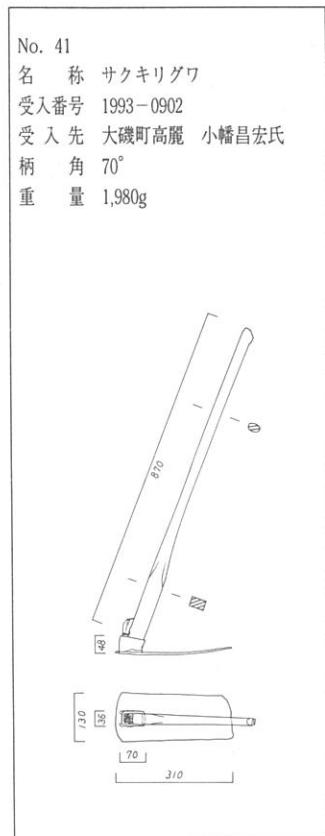
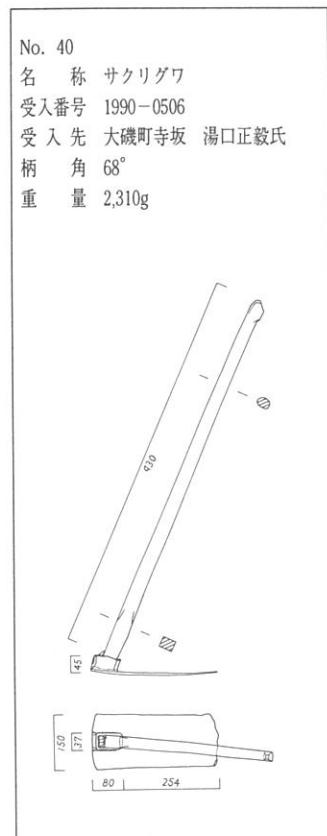
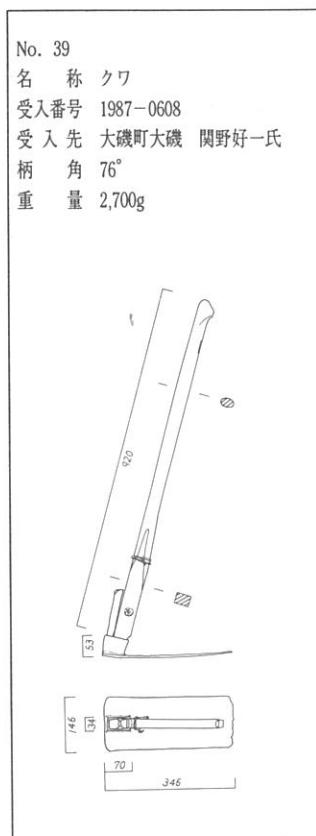
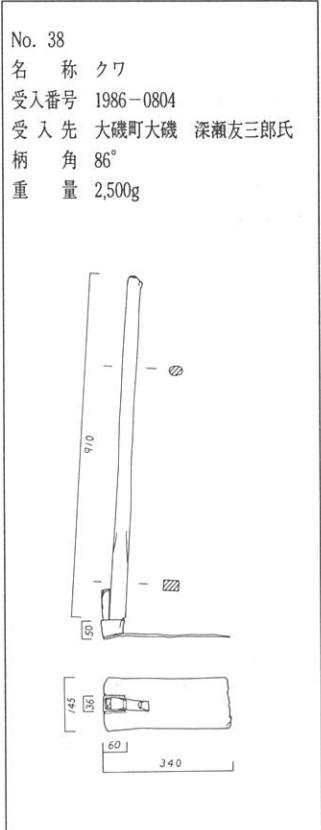
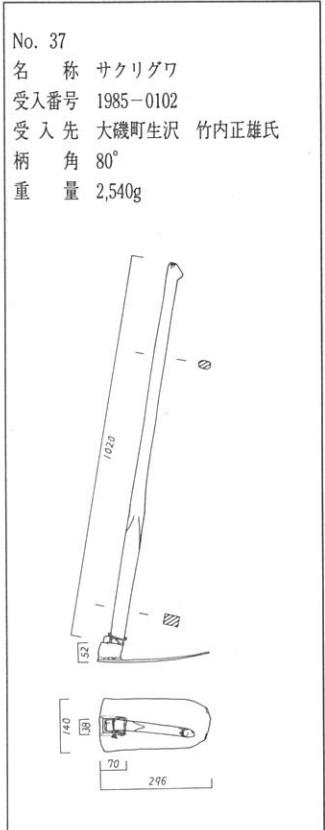
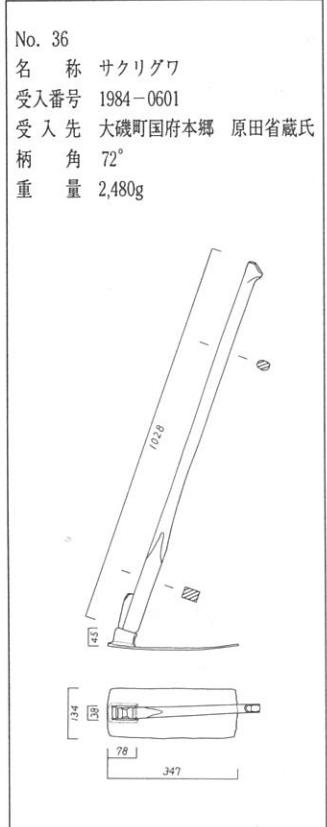
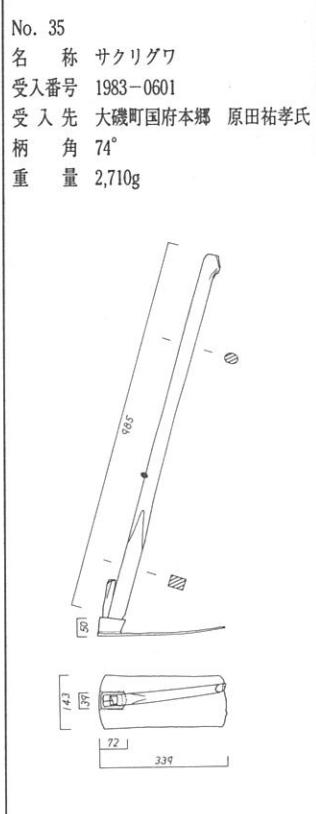




No. 19 名 称 ウナイグワ 受入番号 1996-1003 受 入 先 大磯町西小磯 高橋要藏氏 柄 角 72° 重 量 3,220g	No. 20 名 称 ウナイグワ (柄・カベラのみ) 受入番号 1996-1003 受 入 先 大磯町西小磯 高橋要藏氏 柄 角 一 重 量 1,380g	No. 21 名 称 ウナイグワ (刃のみ) 受入番号 1997-0405 受 入 先 大磯町大磯 小川直吉氏 柄 角 一 重 量 2,730g	No. 22 名 称 ウナイグワ 受入番号 1989-1104 受 入 先 大磯町西小磯 堀口 清氏 柄 角 67° 重 量 3,240g

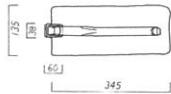
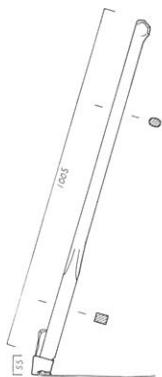
No. 23 名 称 ウナイグワ 受入番号 1991-0508 受 入 先 大磯町大磯 小巻広邦氏 柄 角 64° 重 量 2,790g	No. 24 名 称 ウナイグワ 受入番号 1994-1205 受 入 先 平塚市東八幡 金子寿男氏 柄 角 72° 重 量 3,210g	No. 25 名 称 ウナイグワ 受入番号 1994-1205 受 入 先 平塚市東八幡 金子寿男氏 柄 角 73° 重 量 3,330g	No. 26 名 称 ウナイグワ(マドグワ、刃のみ) 受入番号 1985-1211 受 入 先 平塚市御殿 佐川左一氏 柄 角 - 重 量 2,630g





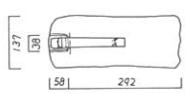
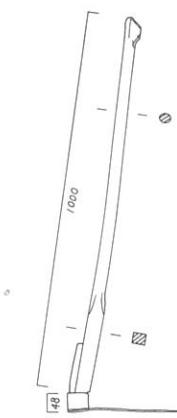
No. 43

名 称 サクキリグワ
受入番号 1993-0902
受入先 大磯町高麗 小幡昌宏氏
柄 角 74°
重 量 2,420g



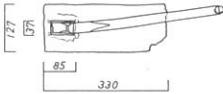
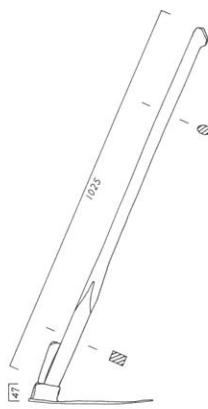
No. 44

名 称 サクリグワ
受入番号 1994-0501
受入先 大磯町国府本郷 匿名
柄 角 78°
重 量 2,460g



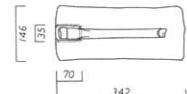
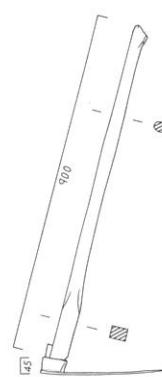
No. 45

名 称 サクリグワ
受入番号 1994-0501
受入先 大磯町国府本郷 匿名
柄 角 68°
重 量 1,960g



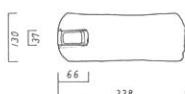
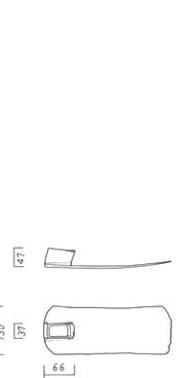
No. 46

名 称 サクリグワ
受入番号 1994-1205
受入先 平塚市東八幡 金子寿男氏
柄 角 78°
重 量 2,350g



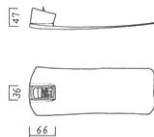
No. 47

名 称 サッキリグワ(刃のみ)
受入番号 1995-0403
受入先 大磯町国府本郷 山口 進氏
柄 角 —
重 量 1,520g



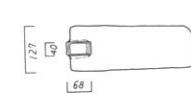
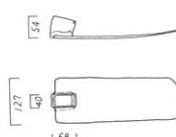
No. 48

名 称 サッキリグワ(刃のみ)
受入番号 1995-0403
受入先 大磯町国府本郷 山口 進氏
柄 角 —
重 量 1,410g



No. 49

名 称 サッキリグワ(刃のみ)
受入番号 1995-0403
受入先 大磯町国府本郷 山口 進氏
柄 角 —
重 量 1,380g

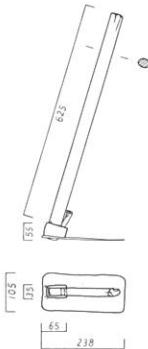


No. 50

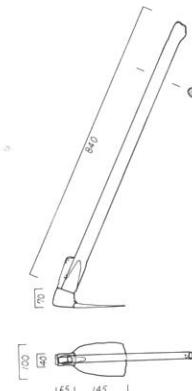
名 称 トグワ
受入番号 1985-0102
受入先 大磯町生沢 竹内正雄氏
柄 角 80°
重 量 2,230g



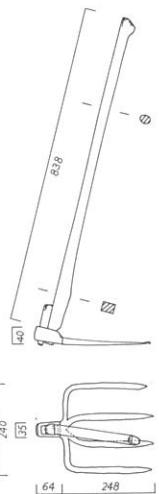
No. 51
名 称 トグワ
受入番号 1986-0701
受入先 大磯町大磯 吉田信太郎氏
柄 角 74°
重 量 1,400g



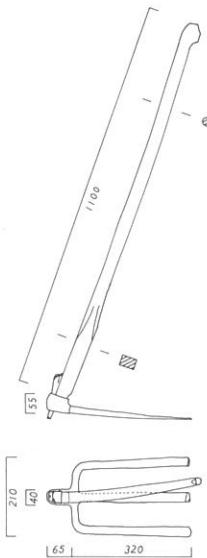
No. 52
名 称 トグワ
受入番号 1994-0504
受入先 中井町井ノ口 熊沢市郎氏
柄 角 66°
重 量 1,765g



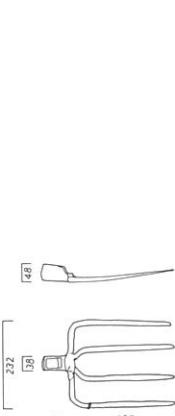
No. 53
名 称 マンガ
受入番号 1983-0601
受入先 大磯町国府本郷 原田祐孝氏
柄 角 76°
重 量 2,040g



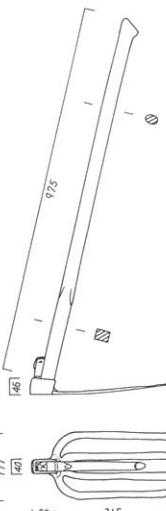
No. 54
名 称 マンガックワ
受入番号 1983-1201
受入先 大磯町国府本郷 近藤 栄氏
柄 角 72°
重 量 3,040g



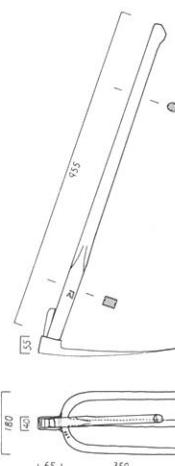
No. 55
名 称 マンガックワ (刃のみ)
受入番号 1983-1201
受入先 大磯町国府本郷 近藤 栄氏
柄 角 -
重 量 1,730g



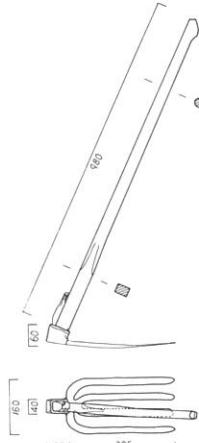
No. 56
名 称 ウナイマンガ
受入番号 1984-0601
受入先 大磯町国府本郷 原田省藏氏
柄 角 74°
重 量 2,720g



No. 57
名 称 マンガ
受入番号 1985-0102
受入先 大磯町生沢 竹内正雄氏
柄 角 73°
重 量 3,340g

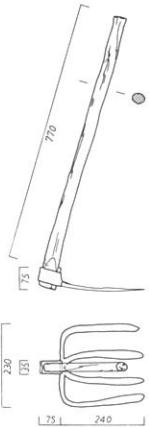


No. 58
名 称 ウナイマンガ
受入番号 1989-1104
受入先 大磯町西小磯 堀口 清氏
柄 角 69°
重 量 2,830g



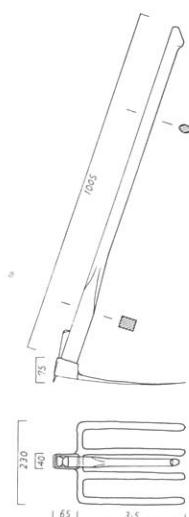
No. 59

名称 マンガ
受入番号 1990-0503
受入先 大磯町大磯 長島周一氏
柄 角 82°
重 量 2,680g



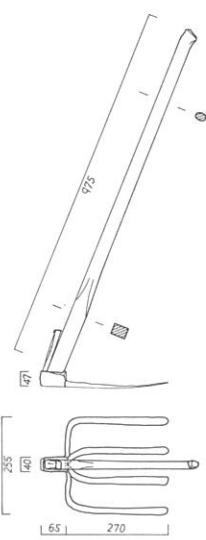
No. 60

名称 マンガックワ
受入番号 1990-0506
受入先 大磯町寺坂 湯口正毅氏
柄 角 72°
重 量 3,470g



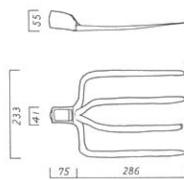
No. 61

名称 マンガ
受入番号 1991-0508
受入先 大磯町大磯 小巻広邦氏
柄 角 68°
重 量 2,630g



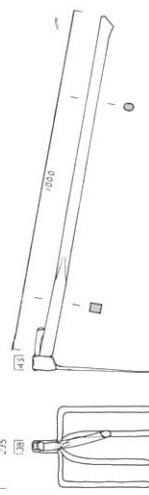
No. 62

名称 マンガ(刃のみ)
受入番号 1991-1101
受入先 大磯町高麗 久保田光蔵氏
柄 角 一
重 量 1,740g



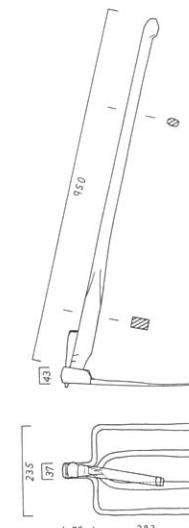
No. 63

名称 クマンガ
受入番号 1993-0902
受入先 大磯町高麗 小幡昌宏氏
柄 角 80°
重 量 2,430g



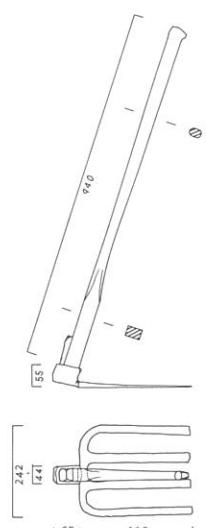
No. 64

名称 クマンガ
受入番号 1993-0902
受入先 大磯町高麗 小幡昌宏氏
柄 角 76°
重 量 2,550g



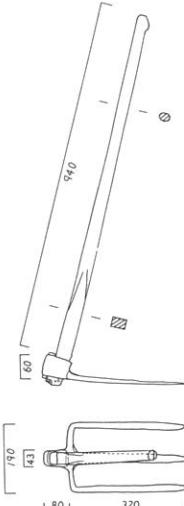
No. 65

名称 クマンガ
受入番号 1993-0902
受入先 大磯町高麗 小幡昌宏氏
柄 角 72°
重 量 3,270g

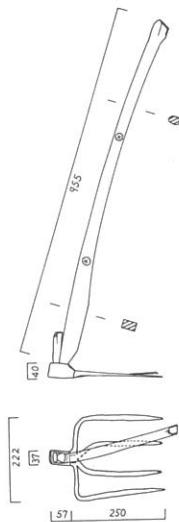


No. 66

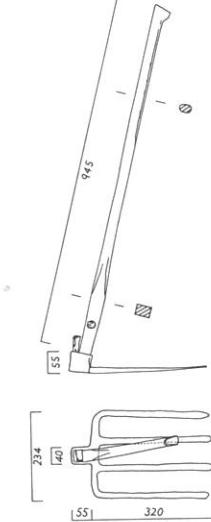
名称 マンガ
受入番号 1993-1102
受入先 大磯町高麗 片野直三氏
柄 角 74°
重 量 3,230g



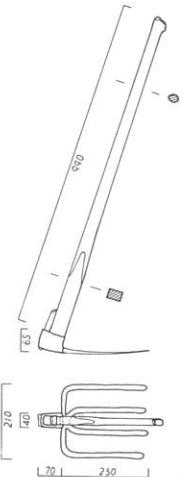
No. 67
名 称 マンガ
受入番号 1993-1102
受 入 先 大磯町高麗 片野直三氏
柄 角 80°
重 量 2,240g



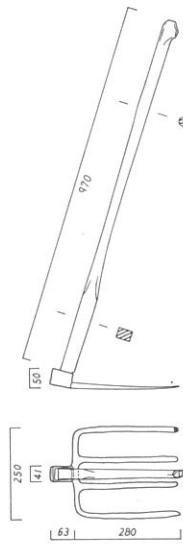
No. 68
名 称 マンガ
受入番号 1993-1102
受 入 先 大磯町高麗 片野直三氏
柄 角 76°
重 量 2,680g



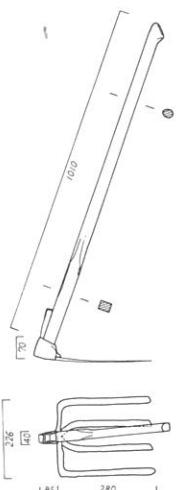
No. 69
名 称 マンガ
受入番号 1993-1102
受 入 先 大磯町高麗 片野直三氏
柄 角 73°
重 量 2,270g



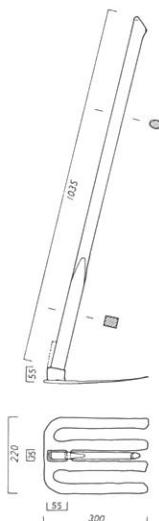
No. 70
名 称 マンガ
受入番号 1994-0501
受 入 先 大磯町国府本郷 匿名
柄 角 70°
重 量 2,380g



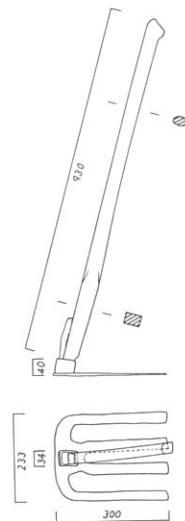
No. 71
名 称 マンガックワ
受入番号 1994-1004
受 入 先 大磯町国府新宿 加藤英雄氏
柄 角 70°
重 量 3,020g



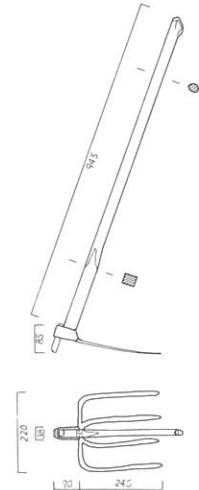
No. 72
名 称 マンガ
受入番号 1994-1205
受 入 先 平塚市東八幡 金子寿男氏
柄 角 72°
重 量 2,260g



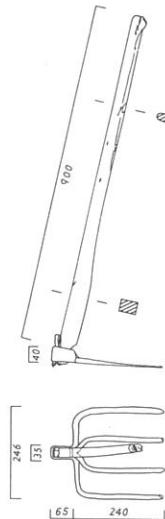
No. 73
名 称 マンガ
受入番号 1994-1205
受 入 先 平塚市東八幡 金子寿男氏
柄 角 76°
重 量 2,100g



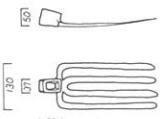
No. 74
名 称 マンガ
受入番号 1994-1205
受 入 先 平塚市東八幡 金子寿男氏
柄 角 72°
重 量 1,920g



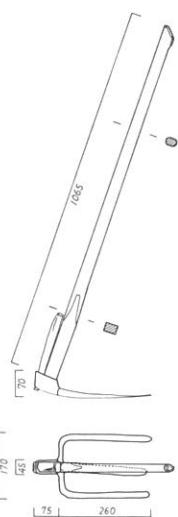
No. 75
名 称 マンガ
受入番号 1994-1205
受入先 平塚市東八幡 金子寿男氏
柄 角 78°
重 量 2,020g



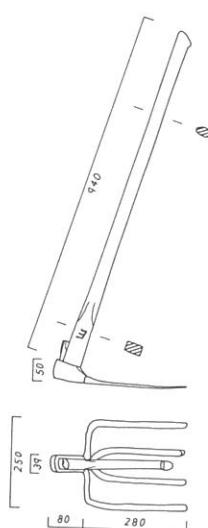
No. 76
名 称 サッキリマンガ (刃のみ)
受入番号 1995-0403
受入先 大磯町国府本郷 山口 進氏
柄 角 一
重 量 1,450g



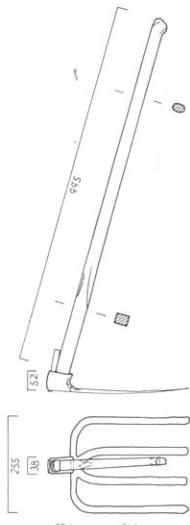
No. 77
名 称 サンボンマンガ
受入番号 1996-1003
受入先 大磯町西小磯 高橋要蔵氏
柄 角 72°
重 量 2,530g



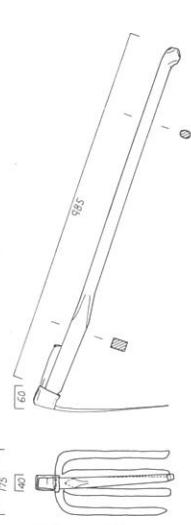
No. 78
名 称 マンガ
受入番号 1996-1003
受入先 大磯町西小磯 高橋要蔵氏
柄 角 74°
重 量 2,700g



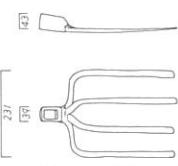
No. 79
名 称 マンガ
受入番号 1996-1003
受入先 大磯町西小磯 高橋要蔵氏
柄 角 76°
重 量 2,470g



No. 80
名 称 マンガ
受入番号 1996-1003
受入先 大磯町西小磯 高橋要蔵氏
柄 角 72°
重 量 2,990g



No. 81
名 称 マンガ (刃のみ)
受入番号 1997-0405
受入先 大磯町大磯 小川直吉氏
柄 角 一
重 量 1,780g



*掲載民具の名称は、使用者または寄贈者が日常的に使用していた名称を基本とした。

*掲載民具の実測とトレースは、佐川和裕、加藤広美（当館臨時職員）がおこなった。